

港区立高松中学校  
令和元年度 授業改善推進プラン

1 区学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果を踏まえた課題

国語	三学年ともすべての項目で港区・全国の平均値を上回っており、基礎的な学力は定着している生徒が多いと考えられる。授業でも課題に対し、基礎的な学力をもとに、より工夫しようとする姿勢をもつ生徒が多くみられる。そんな中でより力を伸ばすための支援をどのように工夫するかが課題である。また、学力調査の結果からははかることができない、協同的な学習に対する取り組みは不十分な生徒が多く課題である。
社会	ほぼ全ての項目で、全国の平均や区の目標値を上回っていることから、ある程度の知識の定着はあるものと考えられる。しかしその知識は個別的知識の域であり、説明的知識として因果関係を整理したり、ましてや概念的知識として他に応用するといった段階には至っていない。今後の課題として、個別的知識を概念的知識まで発展させていくために、レポートの中での知識の使い方にも意識を向けた課題の出し方を模索していきたい。
数学	三学年ともすべての項目で全国の平均値を上回っており、基礎的な学力が定着している生徒は多いと考えられる。ただし、各単元を比較すると方程式や関数、証明などの正答率の低さが見て取れる。今後の課題として、単元による定着度のばらつきをなくしていくために、定期的な小テストの実施や授業内での反復演習を増やしていき、個々の生徒に対応できる時間を設けるようにしていきたい。
理科	三学年とも、ほぼ全国の平均や区の平均および目標値を上回っていることから、基礎的な学力はある程度定着していると考えられる。ただ、単元により定着率にばらつきがみられ、特に3年生の化学分野や電流と磁界などの正答率の低さが目立った。対策として、生徒の単元の内容の理解度を確認し、定着させるために復習テストや確認テストを増やし、生徒が理解しないまま進まないようにしていく。また、定期考査や学力テストの結果をもとに、既習内容の復習の時間を入れるようにする。
外国語	2学年とも、ほぼすべての項目で港区・全国の平均値を上回っている。これを見る限りでは、基礎的な学力は概ね定着していると思われる。その中でも比較的達成率が低い項目について今後は力を入れていきたい。具体的には、語形や語法についての知識、また長文の読み取りが挙げられる。語形や語法については、教科書を基本として、語彙や文法知識について小テストや問題演習を通じて定着を図る。また、長文読み取りに関しては、初見の長文を読み取る活動を継続的に行うことにより、読む速さや正確性を高められるようにしていく。

## 2 各教科の具体的な授業改善

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を収集し、伝えたいことを整理して書く能力</li> <li>・自分の考えを明らかにし、根拠を明らかにして話す能力。また、それをもとに議論・討論を行う能力</li> </ul>	職場体験、各行事での発表・ポスターセッションなど、教科内で完結せず、横断的に取り組める課題を設定し、生徒が授業で学習した内容を、総合的な学習の時間等で応用できた実感できるよう工夫する。また、「話す・聞く」活動が時期的にかたよらないよう、定期的に設定していく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	様々な資料から情報を適切に読み取り、社会的な問題を理解する力。様々な状況で発生する社会的な問題を多面的・多角的に考察する力。主体的に社会に参画し、持続可能な社会を形成していこうとする意欲や態度。	教師からの一方的な内容教授ではこのような資質・能力が育まれないのは当然である。生徒が考えたくなる、追究したくなる見方・考え方を働かせる課題の設定を行い、単元を通じてその解決を図っていく授業設計を行うことが肝要である。そのような真正の問いを立てることで、はい回る事のない、思考が活動的である深い学びをめざす。またESDの視点を取り入れることで世界の持続可能性を注目させ、主体的に他者と協働しながら社会参画の意識を育成していく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物事を順序立てて説明することができる論理的思考力。</li> <li>・学習内容と身近な事例を関連付けて、応用する力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の思考過程とその思考による結果を表現できる機会として、生徒同士での説明活動や生徒全体への発表活動を多く設定する。</li> <li>・身近な事例を参考に数学と身の回りのことを結び付け、学習内容を応用する時間設定を行い、指導を行っていく。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	学習内容を身の回りの現象と関連付けて理解する能力。 未知のことにも自ら課題を見つけて解決できる能力。 環境や科学技術の向上を目指し持続可能な社会をすすんでつくっていこうとする意識をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験を数多く行い、様々な科学的な現象を体験させる。</li> <li>・知識としてだけでなく、理解して内容が定着できるようイメージがわく説明と演習問題による定着を図る。</li> <li>・実験レポートを利用して、自ら課題を見つけ課題を解決する方法を考える指導を行う。</li> <li>・身の回りのことと常に結びつけ、これからの社会における自分の役割について考える指導を行う。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点でとらえ、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化と関連づける。	限られた時間の中で幅広い活動の場面（歌唱・器楽・創作・鑑賞）を保障し、一斉指導だけではなく、主体性を発揮できるグループ活動も積極的にとりいれていく。 深い学びを実現するためには主体的かつ対話的でなければならない。しかし、対話的な学びが話し合い活動ばかりにならないよう、実際に歌ったり、演奏したり、聴いたりすることと言葉でのコミュニケーションの両方を大切にして指導を工夫していく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
美術	感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などをもとに発想し構想を練る力。形や色彩、材料などと関わりながら創造的に表す力。美術作品や社会の中の美術の働きについて広い視野で捉える力。	表現活動の際には、感じ取ったことや考えたことを基に自ら主題を設定させ「何を表現したいのか」を明確にする。 また、制作中に相互鑑賞を挟み客観的視点を取り入れることで、より効果的な発想や創意工夫を図っていく。作品鑑賞の際には作品から発想や構想を膨らませたり、社会とのつながりを意識させるなど表現活動と相互の関係を図りながら指導していく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
保健体育	基礎体力を向上させ、新体力テストの全項目が都の平均を上回るようにする。また、自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する力。	体の動きを高める運動を準備体操などで取り入れ、基礎体力の向上を図るとともに、一つ一つの運動を組み合わせることでより効率よく体力を高める。また、その他の競技においてもグループワークを取り入れることで、学習した内容を学習場面に適用したり、応用することで作戦を考えたり課題を解決する力を育成する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
技術・家庭	技術の基礎的な理解を図り、技術と生活、社会、環境との理解を深め、課題を解決する力、工夫、創造する実践的な態度を育成する。	ただものづくりを行うだけでなく、社会からの要求、安全性、環境負荷などに着目し、技術科と社会とを結びつける。そのために、身近な生活の中にある課題を設定し、その課題を解決するために多面的な追及を行い、最適化させていく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
外国語（英語・国際）	即興で円滑にコミュニケーションが取れるような能力と、それによって人間関係を構築する力。特に、やりとりを通して自分を表現したり、他者への理解から自分を振り返ったりする力を育成する。	文法や語法の正確性に過度にとらわれることなく、英語で意思疎通やまたそれに付随して人間関係構築が図れるよう、授業の中でやりとりの機会を増やす。また自分の身の回りの事柄について表現だけでなく、賛成や反対といった意見を述べたり、社会問題について論じたりそれに対して質問したりと英語で論理的に思考、表現する機会を設ける。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	道徳的諸価値とその多様性を理解し、物事を多面的・多角的に考え他者を受容しようとする考えを深める力。また自分がどのようによりよく生きるかについて道徳的に判断していこうとする能力。	教科書をそのまま授業していても深い学びにはならず、道徳的な判断力や実践力は育まれない。様々な価値観が対立するような発問を設定し、そこで自らの考えを整理し発表する。同時に自分とは異なる価値観を持つ生徒の考えを受容していくことで様々な考えに触れ、より深い理解に到達する。授業において中核的な発問を設定し、お互いの考えをぶつけ合う場面を設けることが大切になる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	自ら進んで課題を設定し、他者と協力しながら集団の一員として課題解決に取り組む力。また自分が所属する集団をより良いものにしていこうとする態度。	学級活動、生徒会活動、学校行事において、生徒たち自身に課題を設定させ、どのように解決・達成していったら良いかを考えさせる。そこで集団の中での役割を自覚したり、集団としてよりよいものを作り上げていこうとする態度を育てていく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	主体的に課題を設定し、その課題を探究していく過程を理解し、各教科で身に付けた資質・能力を生かしながら他者と共同して解決していく力。	生徒たちが課題を探究していくためには探究のプロセスをよく理解する必要がある。各教科で身に付けた力を横断的に活用させながら、様々な意見を受け入れながら話し合い、自分たちのアイデアをまとめ、発表する機会を意図してせてしていく。